



令和元年度 高知市教育研究所 研究員制度

研究員制度は、教育研究所設立以来引き継がれている伝統ある事業の一つで、本年度65年目を迎えております。



「研究員制度」とは、教職員が研究員として学校等で実践しながら教育課程や学習指導法、学校・学級経営などについて研究を深め、その研究の成果を高知市全体に普及し、学校教育の振興・充実に資することを目的に、高知市教育研究所が行っている研究制度です。



学校で実践しながら、研究に取り組み、教育課題の解決を目指します。

1年間の研究の流れ

調査研究・領域ごとの定例会

入所式
(5月17日)

全体定例会
(6月11日)

中間報告会
(8月22日)

全体・各領域の実践発表
(公開授業)
(9～12月)

研究紀要
原稿作成
(1月)

終了式
研究発表
(2月14日)

研究紀要
完成・送付
(3月)

入所式の様子



学習会「学校が変わる・子どもが変わる I
ー授業実践研究ー」

講師：高知大学 刈谷 三郎 名誉教授



入所式後、研究員の研究が充実したものになるよう、高知大学の刈谷名誉教授からご指導いただきました。1回目となる今回の学習会では、研究の具体的な取組方法や教育論文作成のための心得を学びました。

全体定例会の様子



各領域ごとに分かれ、研究テーマや研究の進め方などについて話し合いました。



入所式に続き、刈谷名誉教授に助言をしていただきました。

中間報告会の様子

今年度の研究員 テーマ〔敬称略〕

※ ゴールの姿を見据え、研究や実践を重ねていきます。

教育相談

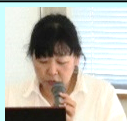
鈴木 ゆう子
(江陽小)



「短時間グループアプローチで得た対人関係スキルを生かして学習に取り組む児童の育成」

道徳教育

建沼 友子
(一宮中)



「主体的に考え、対話でつながる道徳の授業の創造」

人権教育

林 友希
(長浜小)



「人権が尊重される仲間づくりを目指して」

授業研究

井本 啓介
(大津小)



「子どもが自ら数学的表現を用いて、問題理解をし、より深い探究活動を行う算数授業の創造ー子どもが問題に出会う場面の工夫を通してー」

情報教育

濱田 悠
(一宮小)



「プログラミング的思考を教科の指導に生かすためのアンブレラドでの実践」

特別支援教育

山崎 梨加
(神田小)



「読みに困難がある児童へのタブレットを活用した学習支援」

授業研究

竹田 尚子
(西部中)



「数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動を通した生徒の問題解決スキルの向上」

情報教育

間城 美和
(高須小)



「体験活動を通して論理的に思考することで問題解決をすることができる児童の育成」

学校事務

小山 真純
(横内小)
北添 那弥
(土佐山学舎)



「学びを支援する学校事務ー視覚化で共有を図る物品管理ー」



夏休みに開催された中間報告会では、「このような児童生徒に成長してほしい」や「このような環境づくりをしたい」など、それぞれが目指すゴールに向けて進めている研究の途中経過や今後の方針が報告されました。

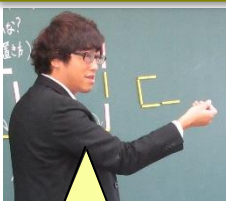
自身が立てた研究仮説を基に、ねらいをしぼり、日々試行錯誤を繰り返しながら研究が前進している様子が、しっかりと伝えられていました。一人7分という短い時間での発表でしたが、研究員の熱い想いが込められた報告会でした。

裏面に続きます

目的

研究員全員で、授業を参観して気付いたことを整理し、明確になった成果や課題を共有することで、それぞれの授業改善につなげる。

全体実践発表（公開授業）：大津小学校 井本 啓介 研究員 算数科「変わり方調べ」



研究員全員を対象とした学びの場の一つとして位置付けられている全体実践発表（公開授業）が、大津小学校で行われました。

井本研究員は、研究テーマ（表面参照）に基づいて算数科の研究を行っており、今回は、第4学年の算数「変わり方調べ」の授業を公開しました。授業では、問題場面の中で起こる変化や対応の特徴を表や図から捉え、式にして一般化するだけでなく、さらに、表で表れてきた「4」という数が何を意味しているのかを図に帰着させて考えていきました。

子どもの発言をつなぎ、小刻みに問いを積み重ねていくことで思考のズレを次々に生み出す。子どもたちは思考のズレを、操作活動によって解決させようとする。そのときにたくさん出てくるエラーモデルが、解決への手がかりになる。子ども中心の解決活動を成立させるために、問題場面や教材の工夫、授業構成を考えました。

【 公開授業の様子 】

課題提示

次のように正方形の段が増えていく。段が20段できるとき、周りの長さを求めよう。

見通しをもたせる
表を全員で丁寧に分析

式化して答えを求める

探究活動を深める

「**焦点化した問い**」で子どもを揺さぶる

課題の把握

この図で、次の4段目はどう増える？



表にしたら分かる!!



自分の考えた表をノートに書いたら、意見交換。



横の変化は…
たての変化は…
表を全員で分析

井本研究員が「他には？」と一言質問するだけで、次々に子どもたちから表についての情報が出てきました。日頃から、多面的な見方をさせる指導がなされていることを垣間見ることができました。井本研究員は子どものつぶやきを拾い、他の子どもにつなげ、主体的な活動をサポートしていました。

言葉の式にすると？

式は？

この式にある「×4」は表ではどの部分？

小刻みに問いを重ねながら、式の構成要素や表との関連に着目させていきました。

段が一つ増えるたびに数え棒は変わることなく4本ずつ増えることが表から分かった。この「変わることなく増える4本」を見付けるための共通の動かし方を図の中から探すことに全員が思考力を働かせ、探究活動が進んでいきました。



失敗例を黒板に残していくことで、新たなアイデアが生まれていきました。



出された意見の「検証と修正」を何度も繰り返していくうちに、一つの考えに収束していきました。

図・表・式を行き来させる

図

表

式

図

研究協議より

【自己の学び・研究につなげたいこと】

- 教科書の内容を超えて、児童と共にどうしてそうなるのか裏付けることで、さらに児童の学習に対する意欲が高まることを強く感じた。
- 井本研究員の日頃の積み重ねを感じることができる授業だった。教材に対する「なぜ?」「どうして?」へのこだわりも見習っていきたい。
- 誤答を取り上げ、全体共有していくことで、安心して発言ができる環境だった。



研究協議では活発な意見交流が行われました。